

外国語活動学習指導案

令和5年11月7日 第5時 児童数 32名

第4学年3組 指導者 田部井 稚菜

ALT Marcel Williams

1 単元名 Unit 5 Do you have a pen? お気に入りの文房具セットをつくろう

2 単元の目標

- ・文房具などの学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- ・自分が持っている文房具を紹介したり、友達が持っている文房具について聞いたりすることを通して、お互いのことをよく知るために、尋ねたり答えたりする。 (思考・判断・表現)
- ・自分が持っている文房具を紹介したり、友達が持っている文房具について聞いたりすることを通して、お互いのことをよく知るために、尋ねたり答えたりしようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元観

(1) 単元について

本単元では、“Do you have ~?” や “I have ~.” などの持ち物を尋ねたり答えたりする言い方と、学校で使う文房具の英語を組み合わせた英語表現を用いて、相手とコミュニケーションを図ることをねらいとしている。児童にとって身近な存在である文房具は、自分のお気に入りの物を持って友達のもの比べるなど、児童の興味・関心が高い題材である。そこで、児童が互いに持っている文房具についてやり取りし、おすすめの文房具セットを考え紹介するという目的意識のある場面を設定することで、主体的にコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるようにしたい。友達に尋ねたり答えたりする体験を通して簡単な語句や基本的な表現に慣れ親しませることで、自信をもって主体的に伝え合おうとする児童の育成を目指したい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は意欲的で、楽しく素直に発話する児童が多い。そのため、アンケートでは95%の児童が「外国語の授業にすすんで参加している」と答えている。その一方で、「みんなの前で英語で発表することはすきだ」と答えた児童は46%程度であった。それは、「英語で伝えることができる」と答えた児童が約7割にとどまることから、英語表現を使うことへの自信があまりもてない児童がいることが分かる。

そこで、本単元では児童が見知っている文房具を用いながら、持ち物を尋ねたり答えたりするやり取りを毎時間繰り返し行っていく。様々なアクティビティの実施とペアやグループなどの学習形態の工夫により、表現に十分親しみ、自信をもって伝えることができるようにさせたい。

(3) 研究主題との関連

主体的にコミュニケーションを図るためには、自信をもって英語表現ができることと、会話をする目的と相手が必要である。そのため、本単元では教師や児童の持ち物を予想し、中身を知るためにやり取りをする活動を設定し、会話をする必然性をもたせる。また、こうして何度も英語表現を聞いたり発話したりすることを通して、使えるようになった表現を使いたいという意欲を高めたい。

以上の取組みにより、本校の研究主題である「相手意識をもち 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画（総指導時数4時間） 聞く…☒ 話す(やり取り)…☒ 話す(発表)…☒

時	目標（◆）と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価基準【評価方法】
1	◆文房具の言い方に慣れ親しむ。 ・【Let's Watch and Think2】世界の子供たちの鞆の中身について気付いたことを話し合う。 ・ALT の鞆の中身を聞く。第4時に行うやり取りを体験することで、単元の見通しをもつ。 ・【Activity】Crash Game で用語に親しむ。 ・振り返り	聞			記録に残す評価は行わないが、児童の学習状況を確認し、目標に向けての指導や、おおむね満足な状況に至らない児童の支援を行う。 【観察】
2	◆“Do you have ～?” や “Yes, I do./No, I don't.” を使って尋ねたり答えたりする。 ・ALT と教師とのやり取りを見て、本時の見通しをもつ。 ・Crash Game で用語に親しむ。 ・【Activity】友達の文房具セットを当てる。友達の持ち物を予想し、尋ねたり答えたりする。 ・振り返り	☒			友達が持っている物について尋ねたり答えたりする。 【観察・振り返り】
3 (本時)	◆“Do you have ～?” や “I have ～.” を使って、持ち物を尋ねたり答えたりする。 ・ALT と教師とのやり取りを見て、本時の見通しをもつ。 ・Crash Game で用語に親しむ。 ・【Activity】Search Game 自分と同じ数の文房具セットのカードを持つ友達を探すために、尋ねたり答えたりする。 ・振り返り	☒			友達が持っている物とその個数について、尋ねたり答えたりしている。 【観察・振り返り】
4	◆お気に入りの文房具セットについて、相手に伝えるように工夫しながら尋ねたり答えたりする。 ・【Let's Listen】登場人物の筆箱の中身を聞き取る。 ・ALT と教師とのやり取りを見て、本時の見通しをもつ。 ・友達に伝えるための4つの大切を確認する。 ・【Let's Play2】端末でお気に入りの文房具セットを作り、友達の文房具セットの中身を尋ねたり自分の持ち物について答えたりする。 ・振り返り		☒	☒	“Do you have ～?” “I have ～.” などを用いて話している。 【思考・判断・表現】 お気に入りの文房具セットについて、尋ねたり答えたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手に伝えるよう工夫しながら、お気に入りの文房具セットについて尋ねたり答えたりしようとしている。 【観察・振り返り】

5 本時の指導

(1) 題目 自分と同じ文房具セットを持っている友達を見つけよう

(2) 本時の目標

- ・“Do you have 〜?” や “I have 〜.” を使って、持ち物を尋ねたり答えたりする。(知識・技能)

(3) 授業の観点

- ・ゲームや教師とのやり取りを毎時間行い、同じ表現を何度も使う機会を設定したことは、外国語の音声に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実感できる児童の育成に効果的であったか。
- ・伝え合う必然性のある活動を設定したことは、主体的に聞いたり答えたりする児童の育成に効果的であったか。

(4) 本時で慣れ親しませたい言語材料

○Do you have〜? Yes, I do. No, I don't. I have/don't have〜.

○身の回りの物 (glue stick, scissors, pen, stapler, magnet, marker, pencil, sharpener, pencil case, desk, chair, clock, calendar), 数 (1～5)

(5) 展開 (3 / 4 時間)

◎児童指導上の留意点

※人権教育上の配慮

☆研究主題との関連

過程及び児童の活動	学級担任の活動	ALT の活動	指導上の留意点
1 あいさつ 【Greeting】 S1: Happy Ss: (挙手)	・英語であいさつをする。 Hello, everyone. Who is happy?	・英語であいさつをする。 How are you today?	◎挙手が苦手な児童も参加できる機会を設ける。
2 導入とめあての確認 【Today's goal】 S1: Yes, I do. S2: No, I don't. Ss: Do you have a 〜?	・ALT とやり取りする。 Hi, Marcel sensei. Do you have a pen? How many pens? Yes, I do. I have a pen. Me too. ・児童とのやり取り通して、児童の発話を確認する。 Do you have an eraser? ・本時のめあてを確認する。	・HRT とやり取りする。 Hi. Yes, I do. I have ten pens. Do you have a pen? Me too. ・児童ともやり取りをする。 Me too! I have an eraser. Do you have a calendar? Yes / No	☆基本的な表現や色や数、好みなどの表現に何度も触れ、慣れ親しむ機会を設定する。
3 活動 【Activity】 ①Crash game ・チーム対抗戦のゲームで単語の発音を確認する。	・文房具の言い方を確認する。 ・発音の支援をする。 ・複数形の“s”や、“an”に触れる。	・発音の支援をする。 ・複数形の“s”や“a/an”を強調して発音する。	

②Search game ・友達が何を持っているのか聞いたり，答えたりする。 S1: Do you have a pencil case? S2: Yes, I do. I have two pencil cases. S1: Two? S2: Two. (ジェスチャー) S3: ジェスチャーで分かりやすくなっていた。	・ ALT とのデモンストレーション Hi, Marcel sensei. Do you have a pen? Yes, I do. I have an eraser. Two erasers. Do you have a ruler? Thank you. ・ ゲームのルールを確認する。 ・ 机間指導をして，発話の支援をする。 ・ 1 ゲーム終わった時に， 4 つの大切を意識していたペアのよさを全体共有する。 ・ 4 つの大切を確認する。 (Smile, EyeContact, ClearVoice, Response) ・ 4 つの大切を意識して活動できるよう， 発話の支援をする。	・ HRT とのデモンストレーション Hi. Yes, I do. I have a pen. Do you have an eraser? No, I don't. Sorry. Thank you. ・ 発話の支援をする。	☆研究内容である「4つのたいせつ」(Smile, EyeContact, Clear Voice, Response)に留意したデモンストレーションを見せることで，活動の見通しをもたせる。 ※うまく言えない時には助け合うことが，相手を思いやるコミュニケーションであることを確認する。
評価【評価の観点】(評価方法) “Do you have 〜?” や “I have 〜.” を使って，持ち物を尋ねたり答えたりする。 【知識・技能】(行動観察，振り返りカード)			
4 振り返り 【Reflection】 ・ 友達にたくさん聞くことができた。 ・ 友達に持ち物を伝えることができた。 ・ 聞き方と答え方が分かってきた。 5 あいさつ 【Greeting】 Ss: See you.	・ 2 回目のゲームで，よりよく会話していたことを賞賛する。 ・ 机間指導をして，記入の内容を把握し，支援する。 ・ 英語であいさつをする。 That's all for today. See you.	・ 記入の様子を見守る。 See you next time.	・ めあてに照らし合わせて振り返りを記入するよう助言する。

4年生 「Unit 5 Do you have a pen?」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【単元のゴールを児童と共有】

“Do you have 〜?” や “I have 〜.” などの持ち物を尋ねたり答えたりする言い方と、学校で使う文房具の英語を組み合わせた英語表現を用いて、相手とコミュニケーションを図ることをねらいとし、1時間目の段階で児童と共有した。また、単元のゴールに向けて児童に身に付けさせたい力を段階的に設定し、毎時間の初めに ALT や児童と持っている文房具を尋ねたり答えたりする Small Talk を行った。本単元のねらいを達成するため、英単語や、やり取りの方法を学ぼうとする意欲を高めるよう工夫した。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【4つの「たいせつ」を意識させるフィードバック】

ALT と4つの「たいせつ」(Smile, Eye Contact, Clear Voice, Response) を意識した Small Talk を行い、相手の反応に配慮しながら自分の思いや考えを伝えるための手立てについて触れることができるようにした。表情や声の出し方の他、Me too. や How many? 何本も同じ色の文房具が出てきたら You like (color). と相手の言葉に反応する姿を示した。また、自分の伝えたことがうまく伝わっていない様子が見られたらもう一度伝えたり、ジェスチャーを用いたりする姿等も見せ、児童からそれらの反応が出てきた時に称賛し、意識できるようにした。

<HRT> Do you have a ruler? How many rulers? Do you have a stapler? Do you like blue?		<ALT> Yes, I do. I have a blue ruler. Yes, I do. I have a blue Stapler. Yes, I do. I like blue.
---	--	--

さらに、ゲーム活動中のやり取りの様子を端末で動画撮影し、4つの「たいせつ」を用いて豊かな表現でやり取りできている様子を全体で共有した。途中で振り返りを挟むことで、より具体的に相手を意識した目線や伝え方、反応でやり取りできるように工夫した。

Smile Eye Contact Clear Voice Response		
--	---	--

「笑顔で、うなずきながら話しています。」
「目を見て、聞きやすい声で話しています。」
「ジェスチャーで分かりやすくしています。」

(3) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【Small Talk や Game で外国語の音声や基本的な表現に繰り返し触れる】

英語に慣れ親しむためには、その表現に触れる機会が多いことで自信をもち、「使いたい」という意欲が高まると考えた。そのため、単元の最後に目指す児童像から逆算して全4時間の指導内容を計画した。4時間目に色と数を加えてやり取りができることを目指し、ALT との Small Talk では毎回色と数に触れながら会話をしたり、毎時間のアクティビティでは段階的にやり取りのレベルを上げたゲーム活動を設定したりした。

1 時間目	文房具の言い方を知る。たくさん聞く・言う “glue stick, pen, eraser…”
2 時間目	二対二で、持っている文房具を尋ねたり答えたりする。(単数形) “Do you have a ~?” や “Yes, I do./No, I don’t.”
3 時間目	一対一で、自分と同じ文房具セットを持った友達を探すため、持っている文房具を尋ねたり答えたりする。(複数形) “Do you have a ~?” や “I have ~s.” “How many ~s?”
4 時間目	一対一で、お気に入りの文房具セットを尋ねたり答えたりする。(数・色) 同上

Small Talk では、ALT が持っている文房具を HLT とともに尋ねる活動を毎時間設定し、その中で“How many ~?”と尋ね、ALT のカウントに合わせて数える場を設定した。ALT が鞆から出す物を一緒に数えることで、自然と数の復習ができるよう工夫した。また、教師—教師だけでなく児童も交えて会話をするすることで、英単語の習得状況や文法の誤認識を教師が把握し、正しい英語に触れさせる機会とした。例えば、“I have a eraser.”と答えた児童に指摘することはせずに“You have an eraser.”と正しい表現で返すだけで、英語に対して萎縮することなく楽しい雰囲気のまま英語に慣れ親しむことができるようにした。児童にとって、覚えた英語を使って ALT とやり取りをすることができたという体験を得られる場にもなった。

また、英単語の習得が難しい児童を含めより多くの児童に学ぶ楽しさを実感できる機会となるよう Crash Game を毎時間設定した。初めは友達の助けを得ながら文房具の英語表現を聞いたり言ったりしていく中で自信をもち、それを ALT や児童間でのやり取りで使うことで成功体験を積みながら学ぶ楽しさに繋がるよう工夫した。



Crash Game

ペア対抗戦へびおに



う～ん。
これは…

そうか！
glue stick

これは
glue stick

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

- 単元の最後の姿を児童と共有することにより、主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- 目的・場面・状況を具体的に設定し、児童が相手を意識して主体的にコミュニケーションをとりたくなるように工夫した。
- 言語活動を4時間目にのみ設定し、ゲーム活動で英語表現に親しむ時間が多かったが、もっと言語活動を通して学ぶ時間が多くなるように指導計画を工夫する必要がある。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

- 4つの「たいせつ」を意識できるよう Small Talk を行ったり、動画を撮影して全体でよい部分を共有したりすることで、相手を意識した豊かな表現に触れる機会となった。相手が何を言ったのか分からない時に聞き返す反応や、言ったことが伝わっていない様子に目を向ける態度が育ってきている。
- 相手を意識した表現には個人差があり、それぞれの状況の丁寧な見取りとそれに対する仕掛けや個別の関わりによって高めていく必要がある。

(3) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

- 毎時間、児童に単元の最後の姿を Small Talk で見せたり参加させたりすることで、英語表現に触れる機会が多くなって自信をつけていく様子が見られた。また、英単語においても同じように繰り返し触れさせることで、同様の効果があった。
- 毎時間のアクティビティでは段階的にやり取りのレベルを上げたゲーム活動を設定したことで、身に付けたい表現を徐々に習得することができた。
- 授業の中で終わるのではなく、実生活において実際に英語に触れる機会の充実を図る必要がある。